

◇保育科第三部 主要科目の特長

科目	特長
保育原理A	<p>今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史的変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。</p>
保育課程総論	<p>教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を学修します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とします。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養います。</p>
保育の心理学 I	<p>人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のつまずきについて理解することも目標とする。</p>
音楽教育A	<p>保育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、子どもの表現しようとする意欲を受け止め、表現する喜びを共に育てていかなければなりません。また、保育現場が多様化している現在、様々な状況の中で子ども一人ひとりに偏りなく接していかなければなりません。このことを踏まえて、音楽を多角的に捉え、その楽しさを広げていくことを実践の中で学びます。</p>
造形A 担当者名:岩見 健二	<p>子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。</p>

◇保育科第三部 主要科目の特長

科目	特長
造形A 担当者名:柳楽 節子	造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていることが必要である。この授業では、造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を、課題制作を通して楽しみながら養えるよう、授業を進めていく。眼と手と頭、体全体を使って、受講生が造形の面白さを発見できる力を養うことを目標とする。
造形A 担当者名:満田 知美	保育現場での造形遊びで生かせる基礎(描写、色彩)や道具の扱い方を学びます。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現します。材料や道具に十分に馴染むことで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ絵や工作に表したくなります。言葉でいいあらわせない気持ちを存分に出すことができます。まずは、小さな思いをコンセプトに作品を制作します。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案します。
幼児体育A	幼児の運動遊び、発達に則した各種運動を通して、からだのエネルギーと心のエネルギーの関係について考える。
社会福祉	現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。
教育原理	人間が成長発達する過程には、必ず「教育」の営みが介在していると言える。この、「教育」という人間の営みについて、できるだけ多角的な観点から理解を深めるようにする。とくに、教育の本質、目的、方法について、教育の歴史と現在の取組みについて概観し、今日の教育とこれからの教育を考える機会になるように努めたい。
教師・保育者論	学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。 さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。